

※文責はすべて、主催者である八王子つばめ塾理事長の小宮にあります。

※個人名を特定されないために、団体名ですべて表記してありますことをご了承願います。

開会挨拶(八王子つばめ塾小宮理事長)

今回の会場は、東海つばめ学習会の柿本代表にお手配いただいた。深く感謝します。

今日はマスコミや単なる聴衆は呼んでいない。実際に活動を行っている団体・関係者が参画することで、活動に役立つようにしたい、との思いからです。今日は、よろしくお願いいたします。

## 団体活動紹介

### ①茨木つばめ学習会

茨木つばめ学習会は経済的に厳しい状況にある家庭の子ども達に向けて、学習支援を行っている団体。

学習会で勉強すると同時に、将来は別の子ども達へ恩送りをしてほしいと考えている。勉強だけでなく居場所作りも心がけている。2017年5月に茨木市で活動開始。毎週月曜に茨木市立春日丘公民館にて。11名の登録講師と延べ250人の参加生徒数。最近はその学習支援が縮小していることもあり、茨木つばめ学習会のミッションの重要度が上がってきている。

ミッションは「地元地域×子どもたちの居場所」

子どもたちは孤独。親の労働時間が長い。敷居の低い居場所を提供したい。

具体的な活動は・・・

子ども食堂との協力(茨木子ども食堂)、講師の「志」育成:若い講師の将来に向けての志を育む活動

教材の拡大:「学びエイド」「ちびむすドリル小学生」

「子どもの貧困」というのは言葉としては一言で終わりだが、いろいろな問題が折り重なっている複雑な問題。誰かの役に立てるのであれば、それが活動の意味であると思っている。地域・エリアのために頑張っていきたい。

### ②さなぎの杜

岐阜県揖斐郡で活動。水曜と土曜。小学生1名、中学生9名。食事の提供を行ったり、大掃除を一緒に行う活動なども進めている。地域の方々、企業の社長、さまざまな社会人を巻き込んで活動を行う。「学習」は活動の一部。学ぶ意味や社会における自分を意識させることで、それを学びに繋げている。

今年度はスタッフの勉強を重視している。臨床心理士や岐阜大学の先生を呼んだりしている。

### ③学習支援団体 Apolon

「未来を切り拓く力を育む」を団体理念に活動。立命館大学の登録団体として2012年11月1日に設立。在籍スタッフは28名。

中学生学習会「かけはし」が大きな事業。京都市からの受託事業。生活困窮生体の中高生が対象。グループ担当制(子ども2人に大学生3人程度)

昨年度は、行政のCWとの連携が必要だが、深められていないことが課題と掲げたが、現時点でも課題として残っている。新しい課題は、これから人手不足になる可能性があること。大学1・2年生のコンスタントなスタッフは8名程。京都市は、茨木市とは逆に事業を拡大しようとしており、「減るスタッフに対して増える子ども」という状況が

生まれつつある。また、愛着障害をもつ子どもなど、子どもの状況の多様性が広がるなか、専門性がなかったり法律や制度に関する専門知識がない大学生が対応しなくてはならない。

もうひとつの事業は学習教室「縁」中高生の長期休暇に合わせて実施する短期集中型の学習会。勉強だけでなくレクリエーションを合わせて行う。かけはしに行けなくても「縁」には来てくれるような子どもも。(ただし、今夏は人手不足などのために実施せず)

今年度不実施だった縁の代わりに「結」を実施。内容は変わらないが、スキームが「京都市との協業」という点が縁との相違点。

縁・結とも、それらの活動からかけはしに繋がった子どもがいる。

ここまで挙げてきたように、市の動向に左右されやすいのが利点でも課題でもある。もっと深い連携が必要なのだが、市側のスタンスと大学生(アポロン)のスタンスの相違から、連携がうまくいかなかったことがあった。また、人手不足は恒常的な課題。

#### ④相模原みのり塾

今日の参加団体は大部分が前回と同じなので、団体概要などは省略。昨年度からの変化を中心にお話する。以前は無料だった橋本公民館が4月から有料化に。ただし無料団体として認定され、無料での使用を継続できている。昨年度は3コマだったが今年度からは4コマに。生徒数は大幅増加。ボランティア講師もかなりのペースで増加中。ただし、ボランティア同士の交流・情報交換に不足がある。代表が参加しない「みのりラウンジ」を開催し、講師同士のコミュニケーションを促進。

10月くらいまで模試も受けられないような「入試とは」「受験とは」を知らない子ども・家庭が多い。情報の格差を感じる。学校は「塾に訊け」としているケースも。

やめる生徒はほとんどいない。やめる生徒は中3の5・6月に、なんとかお金を工面して有料塾に行くようなケース。子どもは多いが講師も多いので、1対1の授業を確保できている。

課題は・・・

講師が思う「やる気」の基準が講師目線であること。代表からなんとかケアを進めているが、継続的な課題。

自宅学習の定着に課題がある。週に1回50分勉強したとしても、それで学校の勉強ができるようになるわけではない。資金面の課題も生徒増とともに拡大。

JAXA、公民館まつりなどイベントを行ってきたが、社会参加イベントはもっと増やしていきたい。また、いまの個別指導を遠隔で行うような取り組みも進めたい。

#### ⑤慈有塾

無料塾ではあるが、対象は15歳以上の「学校に行っていない」子や中卒、高校中退などで高認試験を受ける人が対象。特に経済的な状況などに関する条件はない。ただ、多摩市には他に無料塾はないため、ごく一部、中学生も受け入れているケースがある。

教育格差の連鎖は強く感じる。「親が大卒」というのは5年間で1ケースしかない。医者は世襲だと思っていたり、奨学金を知らなかったりといった情報格差も大きい。そういった生徒ばかりではあるが、今年は「高卒認定試験を受けて公立看護専門学校に進学」というケースも出ている。親が暴走族、少年院経験、年少での出産・育児、生活保護家庭など、複雑な環境で過ごしてきた生徒が多い。行政の社会保障制度は本当に困っている人に届くサービスになっていないと感じる。いまの在籍は27名の生徒。すでに面談が予定されており、30名程度になりそう。一人親家庭で育った生徒だけでなく、自身が一人親である生徒も。子どもを連れて勉強できる場所はなかなかないので、そういった支援も役割の一つ。

運営は、基本的には民間の助成金・寄付によるもの。事業収入はほとんどない(あっても大部分は税金で持っていられる)。

## ⑥吹田つばめ学習会

2016年10月から活動開始。代表の「母子家庭・経済的な問題から塾に行けない」「高校の先生が大きなケアをくれた」という経験が、活動の原点。先輩が行っていた阪神つばめ学習会を知り、実活動に踏み出した。

当初は3名程だった参加生徒数は、現在は15名程度が出席するようになった。

最近の活動は・・・

吹田ロータリークラブでの講話。ここから、ロータリークラブ会員より問題集などの寄付に繋がった。

留学生との英会話教室。先生と話したいというのがモチベーションとなって、小学生が英語学習に取り組むように。内閣府の子供の貧困助成団体登録したことで、クオカードから児童書の寄贈を受けた。小学生向けにパソコン教室。タイピングの練習。

こだわりは・・・

生徒の結果にコミットする。夏期・冬期講習なども。思考力教材を使用する。ピグマリオンなど。最終的にめざすのは、「つばめ」がなくても自分で勉強できるようにすること。Polcaというアプリを使って活動資金を集めている。

## ⑦高槻つばめ学習会

活動内容を具体的に紹介する。

小学生は体験重視。中学生は学力養成。高校生は「居場所」。高校生は中退・転校・通信制への移行がみられるので、それらへの対応。

小学生:プロ講師による英語教室や、声楽家による講演(体験談、ミュージカルの現場の紹介など)。プログラミング教室も。2020年からの必修化に向けた対応。情報リテラシーなど包括的な指導野中の一つにプログラミングがある、という位置付け。京都体験ツアー(京都でのもの作りに触れるツアー)も。

課題は・・・

生徒のモチベーションアップ。「なぜ勉強するのか」を一緒に考える機会をもつ。キャリア支援イベントなど、自分の将来・仕事について考えるなかで、勉強する意味・高校を卒業する意味を考えてもらう。

家庭学習の習慣化。定期テストを持ってくるように言っても持ってこなかったりするケースも。家庭での勉強には、保護者の理解・協力が必要。やりとりをしながら保護者の意識改革や保護者との信頼関係の構築を図っている。講師のビジョン共有。学力重視の講師 vs 体験重視の講師、教育的観点 vs 福祉的ケアなど。バランスが必要。

学習支援以外の課題では・・・

不登校生徒のこと。半分くらいが不登校生徒、という時期もあった。つばめ学習会にも来られないような生徒も。こちらからのアウトリーチ・家庭訪問が有効ではあるが、人的コストが過大で、対応が難しい。

発達障害のこと。団体・スタッフにノウハウ・専門知識がないまま1年半くらい進めてきた。(といっても、何かをできたわけではない)が、なんとかこなしてきたのは、生徒同士の集団の力が大きかったと感じる。

外国人児童のこと。お母さんが外国人で、子どもはハーフ。学校支援に当たっているNPOや学校の放課後教室の担当者などとの連携をとることができた。一人に対して多くの関係者のネットワークが必要となる。一人を受け入れたところ、その子の属するコミュニティで噂になり、入塾希望が出てきたが、受け入れることができていない状態。高校入学後の転校や中退のこと。居場所作りを促進する。

## ⑧宝塚つばめ学習会

運営運営 NPO 法人リーダーズカフェ～関学生のための学べるコミュニティ～。2016年3月から活動。日経新聞を読む会、近未来カレッジ、海外スタディ・ツアー、といった大きな活動の中の一つとして宝塚つばめ学習会が位置付く。

毎週月曜に行っている宝塚つばめ学習会が一番大きなウエイトを占める(感覚的には半分くらい)。3教室・5クラス。生徒数は22人(12名の小学生、9名の中学生、1名の高校生)。講師20名は大部分が関学生。TVでの取り上げや、市の広報誌への掲載などによって、生徒数が増加。今年は1年生が4名加入し、当面の人材確保ができた。また、学生の研究の題材として取り上げられた。卒論、レポートやグループワークの題材として取り上げられたケースがある。

課題は、学生のモチベーション維持。子どものため、というのが第一義だが、それを充足するには学生のモチベーション維持・成長が必要。来年4月に出版予定。「無料塾が人をつくる(仮)」。

## ⑨東海つばめ学習会

今年度より開講。運営の2名は会社員で、ポスティングなどにはできない。そのため SNS の活用を重視。講師募集などもインターネット経由。生徒も半数は Facebook・半分が市内のフリーペーパー・広報。ただし、Facebook 広告は効果がなかった。Facebook グループ投稿には効果あり。

特徴は・・・

愛知県は複合選抜制。公立高校には確実に入れる。「公立高校に入ろうね」はモチベーションにならない。

ブログは即日更新。授業が終わったらその日のうちに更新する。

たまにコラムも書く。会社員が運営している。無料塾は会社員でも運営できる、というモデルケースになりたい。

これまでに22回の授業を開催。1回あたり3名の生徒・4.3名の講師。これまでは講師の供給過多だったが、生徒が増加中。今後は、NPO の法人格取得(2019年度)が目標。

## ⑩中野よもぎ塾

中学生を対象とした無料塾。定員は25名。昨年度は公立6名・私立2名で全員合格。最初の年の卒業生は、この春無事に大手企業に就職を果たした。この春から、5名の高校生サポーターが参加。英語・選挙学習など、さまざまな分野で活躍中。無料塾のスタートアップに関するセミナーを7月に開催。参加の大学生がいまはよもぎ塾のスタッフとして加入。

今年も8月にサマーキャンプを開催。企画・準備などはすべて生徒が行う(大人は横でサポートするのみ)。

11月には無料塾対抗テスト大会を開催。

中野の社協が進めている中野区内のネットワーク作りに参画中。子ども食堂・無料塾のマップを公立小中学校に配布。子どもだけでなく、先生に知らせる意味合いも。

ネットワークに入ることで、他団体のアセットを使ったり、アセットを融通し合うことができたりするようになっていく。無料塾同士の横の繋がりがだけでなく、フードバンクとの繋がりが、例えば障害をもつ親への対応として大人向け障害者団体のとの繋がりが、さまざまな団体との連携が進むとうまくいくことが多そう。

## ⑪阪神つばめ

無料塾の運営拡大に必要なこと(強い意思・信念に加えて)

組織としての目標を持つことが大事だと考えている。阪神つばめ学習会では、

「完全にボランティアで教えて下さる講師から学んだ子供たちが、「いつか自分も社会のために」と思い行動する

「人材」に育つこと。」と定めている。

関西つばめ学習会の学生部を立ち上げ、阪神つばめ学習会だけでなく、近隣の吹田、宝塚、茨木、千里の各つばめからも毎月参加。各教室の取組計画と内容、達成度、結果を共有することで「つばめグループ」の質の向上と均質化を図っている。生徒の学力向上や新規講師の募集方法などは各教室が取り組んだ成功事例を基に、非常に参考になる情報交換になっている。

今年の7月には、大阪にて無料塾シンポジウムの関西大会を初めて開催。無料塾14団体、全部で21団体が集まった。

講師数の確保の問題。関西地区のつばめ学習会それぞれのデータをみたところ、年度末に講師数が減ることが多い。講師は少なくて困ることはあっても多くて困ることはない。

総合窓口の開設の試みをしている。各団体はそれぞれ素晴らしい活動をしている。その力を結集して、まだ支援が届いていない子どもに届けていくための継続的な努力が必要と考える。

#### ⑫八王子つばめ塾

団体概要は省略し、ここ1年の報告。

高校生奨学金を創設。高校生塾生が増えてきた。交通費を実費支給するのは非効率。奨学金として3万円を渡すことにした(使途は自由)。卒業生が講師として帰ってきた。大学生3名。高校生クラスの充実。2週に1度、集中して授業を行う。

課題は、規模感が大きくなるにつれ、一人一人への細かなケアが難しくなっている細かなと。大学受験に向けた支援、特に経済面へのサポートに難しい面がある。寄付者・支援者を獲得する試みは継続的に行う必要があると感じている。

#### ⑬淵野辺つばめ塾(小宮が代表を兼任)

2017年3月に開設。週1回、水曜・日曜のいずれかに通う。

#### ⑭豊中つばめ塾(小宮が代表を兼任)

2017年9月スタート。大阪府豊中市あん株式会社のビルで開設。

#### ⑮鶴川つばめ塾(小宮が代表を兼任)

2018年3月スタート。鶴川駅のアパートの1室(8畳程度)を借りて開設。事務局長は非常にネットワークが広く、生徒・講師とも多く集まっている。

### オブザーバー団体より挨拶

#### ・大吉財団

大吉財団は、昨年設立され、子ども支援・災害支援がミッションとしている。直接支援ではなく、それらを担うNPOなどの各種団体に対する支援を行っている。財政面だけでなく、仕組みを含めた包括的な支援・特に初期支援が事業領域。

## 質疑応答・全体討議

Q、Apolon さんへ：「学生講師の確保はどのようにしていますか？」

A、うちは学生講師のみ。社会人はいない。サークルとしての募集に加え、人の繋がりでも確保することが多い。また、授業を通じても確保している。

Q、全体へ：無料の動画コンテンツの利用はどのようにすれば良いか。動画は見るだけでは効果が薄いと思う。うまく使う方法は？使っている例はあるか？

A、中野つむぎ塾が利用している例がある。講師数が足りないとき、iPad を配って使わせている様子。

ただしデバイスの調達は難しい。他に中野区では「キャメル」さんが無料の動画コンテンツを製作・提供している。それもデバイス確保問題はあある。

A、学びエイドは無料動画コンテンツ・映像講義。ただし、それを中心に使うというよりは補助教材。

A、NPO ならテックスーパージャパンさんがタブレットを提供している。

A、イーパーツという団体が電子デバイスを格安で提供している。法人格不要。ただし高倍率。

A、自宅学習のため、という意味合い。例えば、スタディーサプリはどうだろう、とも思うが、うまく使えているのかは分かりにくい。

Q、「思考力」とは具体的にどんなことを指していますか？

A、東海つばめ学習会：うちは、論理的思考力。思考力ゲームのなかで、養っている。

A、吹田つばめ学習会：プリントでやらせているのは、例えば「この空間にサイコロをうまく繋げるにはどのようにしたらよいか(空間空間)」他にもピグマリオンなど。

提案、中野よもぎ塾：「無料塾 全国フェス」みたいなことをやりたい。子ども食堂は爆発的に増えている。

無料塾の方が先行だったのに、子ども食堂の方が発展が進んだように思う。

・八王子つばめ塾：確かに子ども食堂に比べれば広がりが弱い。

・慈有塾：祭りとは別だが、6月に福岡でセミナーを行った。祭りとは違う形ではあるが、そのような啓蒙活動を展開するのも有意義だと思う。

・ぎふ学習支援ネットワーク：子ども食堂が増えたのは、前提として学習支援があったからだと思う。「でも勉強は教えられないな」という人が子ども食堂開設に進んだのでは？行政が委託しているようなレベルも含めれば、かなりの団体がある。

Q、阪神つばめ学習会：今日のこの会を上回るようなイベントはあるのか？

A、八王子つばめ塾：たぶんない。

Q、阪神つばめ学習会：無料塾における、受託事業と民間有志型の事業の違いについて説明を。

A、八王子つばめ塾：行政からの受託事業は、例えば年間800万をもらって、市の指定の通りに学習支援を行うというもの。資金的なバックアップ・保証はある一方で、自由度は低い。例えば講師もボランティアスタッフではなく、有償の場合が多い。

Q、大吉財団：子ども食堂の話も出たが、大吉財団では子ども食堂の支援も行っている。各団体からの発表の中では「居場所」というワーディングがあった。どのような未来を考える？

A、中野よもぎ塾:居場所のどちらかというよりも、いろいろな団体で多様性をもつのがよいと考える。居場所色が強いところ、学習・塾の色が濃いところ、いろいろがあって子どもが選べるような状況が出来てくるのがよいと思っている。

Q、阪神つばめ学習会:各団体でイベントが行われているが、子どもたち向けではなく講師向けはやっているか？  
(阪神つばめ学習会では子ども向けはほとんどやっておらず、講師向けが多い)

A、中野よもぎ塾:授業が終わった後で、必ず懇親会を開いている。それ以外に、保護者とサポーターだけの食事会や、小さな旅行、大人だけの打ち上げ会をもったりしている。高校生スタッフを入れた食事会も。

A、Apolon:大学生なので、合宿にみんなで行っている(奈良、広島、石川・福井、横浜・鎌倉など)。1学年差間での交流は盛んになるが、2学年差間での交流がなかなか持てていない。

## グループディスカッション、意見交換

### ①「団体運営について」のグループ

将来の独立に向けて、将来無料塾を立ち上げたい人に対して、アドバイスを、という形だった。大学生が立ち上げた場合、継続性を持たせることが難しいと感じた。しかし、どのような形態で運営するにしても、最初は、設立者の強いマンパワーが必要になる、ということが強く印象に残った。支援者の見つけ方・必要性や、他団体との連携などについても勉強になった。

### ②「生徒への学習指導について」のグループ

「教育的な観点 VS 福祉的な観点」が課題に。学習指導だけにかかわらず、家庭に入っていくことが重要と考えるものの、専門性や人手の問題で難しい。福祉的なアプローチを塾として一切していない団体もある。生徒との距離の取り方が話題になった。情報共有の方法について、意見交換をしたが、なかなか有効な方法がないと感じた。

### ③「無料塾の未来について」のグループは2つに分かれたので、それぞれまとめを掲載

1、認知度を上げたい。「塾は有料」の概念を壊して、「無料塾に行くのは恥ずかしい」という考えをなくしたい。無料塾を広げたいと考えているが、そのために、立ち上げるハードルを少しでも低く(立ち上げやすく)することが大事。そこで、「無料塾ドットコム」のようなものを作って、無料塾を開きたいという人のために既存団体が相談に乗ったり、アドバイス・サポートをしたりするような窓口にするのはどうか。

2、最終的には無料塾がなくなるのがよい。ただし現状ではそれは難しいし、むしろ増やさなくてはならない。子ども食堂とおなじように市民権を得て、広める必要がある。たとえば行政を巻き込むことも必要だろうが、行政を巻き込むと自由度がなくなる。そうすれば運営者・スタッフのモチベーションも下がるだろう。そうならないような巻き込み方が必要になると考える。ひろく地道に宣伝を進めることが必要になるだろう。

## 閉会挨拶

来年も同様の会をもちたい、という意見多数。場所は今年と同様に名古屋で開催を見込む。